

東京白楊丘より



白楊ヶ丘同窓会東京支部

旧制函館中学校 函館中部高等学校

ホームページアドレス <http://h6.dion.ne.jp/kanchu/>

第31号

平成20年.8.23
(2008年)



写真提供：67期 吉岡直道氏(函館在住・吉岡写真館)

支部長ご挨拶



白楊ヶ丘同窓会東京支部長

安田 康次

67期(昭和40年卒)

皆様にはますますご清栄にお過ごしのこととお喜び申し上げます。

金子前支部長に代わり支部長就任は突然の事で、大変戸惑っておりますが、皆様のご協力もあり無事に活動しております。

私としては、もう一度初心に帰り、白楊ヶ丘同窓会東京支部の基本方針であります、

「明るく楽しく、活力と魅力ある同窓会にしよう」

「組織を再構築し、合理的運営を図ろう」

「時代の流れに沿った対応と展開をしよう」

「若年層を含む会員数並びに参加者の増強を図ろう」
これらの事を、実践していきたいと思っております。

同窓会においては、やはり「楽しく」なくては行けないと思います。親睦大会においても、期幹事を決め、世代間を越えた交流、函中出身という一体感、函館を愛する心、そのようなものが、みんなで楽しめる同窓会になればと思います。

又、会員の輪を広げ、若い方々にも多数参加頂けるよう努力しております。

白楊ヶ丘同窓会東京支部長という大役を仰せつかり、一年が過ぎ、ますます責任を感じている次第です。

まだまだ未熟で、伝統ある同窓会を運営するには力不足かもしれませんが、今後も全力を傾注し、会員の皆様からのご指導とご協力、そして応援を頂きながら、発展させていきたいと思っております。

大学合格者延べ数(6学級)

区分	平成20年度		平成19年度		平成18年度		平成17年度	
	現役	過年度	現役	過年度	現役	過年度	現役	過年度
国公立大学	95	34	85	33	81	31	77	34
私立大学	152	51	119	55	119	79	135	81
その他・準大学	2	1	2		2	3	1	3
短期大学	6		4		7		9	2
3年次在籍	240		240		234		231	
国公立出願	165		154		162		169	
国公立2次出願	162		147		150		161	

新しい時代の新しい教育を

函館中部高等学校長 黒田 信彦



本年4月1日付けの人事異動で北海道教育庁から函館中部高校に着任した校長の黒田です。白楊ヶ丘同窓会東京支部の皆様にはお世話になります。どうぞ宜しくお願いいたします。

私は昭和46年(1971)に第73期生として本校を卒業し、高等学校の理科教員として池田高校と室蘭栄高校に勤務した後、13年間

にわたり教育行政の仕事に携わり、平成14年から約3年間は森高校の校長を務めさせていただきました。

学生時代から数えて丁度40年目にして母校で勤務できることとなり、校長の重責を感じながら日々緊張感を持って職務に励んでいます。

さて、ご存じのとおり本校は明治28年(1895)に函館尋常中学校として開校し、今年で113年の歴史と伝統を誇る道内屈指の進学校であり、函中スピリットである「白楊魂」に象徴される自主



耐久レース

自立・自由闊達・質実剛健・堅忍不拔・不撓不屈の精神に則り、自分らしさを発揮しながら学校生活を送っている生徒が多いことは昔と変わっていないと思います。

本校は昔から地域から期待される学校としてその役割を果たし、全国や世界各地で活躍している著名な方が多く輩出されており、現在の高校生は21世紀の前半を支えてくれる有為な人材として期待されています。

最近の本校における教育活動の顕著な例としては、文部科学省からスーパー・イングリッシュ・ラーニング・ハイスクール(SHEC)の研究指定を受け、英語のコミュニケーション能力の育成に大きな成果を上げており、今では全国から注目を集める学校になりました。

そして本年5月2日には国際大学連合との調印式を行って、本校生徒の国際感覚を涵養し高い語学力を身につけ、世界に通用する人材育成の一助とすることを目的として、イギリス、アイルランド、アメリカの4大学と連携し、海外の大学の教授陣による本校で



国際大学連合理事長の講話

の特別授業や語学留学、連携大学への推薦入試制度など新たな取組を開始したところであり今後の成果が期待されています。

さらに、本年度からは北海道教育委員会から「地域医療を支える人づくりプロジェクト事業」の研究指定校として、医学部への進学を目指す生徒に対して、地域医療の現状や医師という職業への理解を深める機会を提供し、地域医療を担う使命感を育成するとともに、医学部の学生を講師とした集中講義をはじめ、地域医療体験事業やメディカル・キャンプ・セミナーを開催するなどして進路希望の実現に向けた学習支援に努めることとしております。

このほか、学力向上プロジェクトの研究指定事業にも取り組んでおり、理科と数学を中心に「確かな学力」の育成を目指すための研究を進めその成果を管内や全道の高等学校への普及・啓発に努めています。

今や伝統校と言えども少子化が急速に進んでいる中であって、黙っていても生徒が集まってくる時代は終わり、学校の特色づくりに努め中学生がその特色を理解して学校を選ぶ時代になっています。21世紀は「個性」と「選択」の時代と言われており多様な進路希望を持つ生徒たちに対して、進路実現を図ることが学校教育の重要な役割です。

学校経営の責任者である校長は、時代が変わっても「不易」なものは大切にしていく一方で、時代の変化に対応した「流行」を見



入学式での部活動勧誘風景

逃すことなくそのバランスを大切にしていかなければならないと思っています。

そして、新しい時代の新しい教育をタイムリーに取り入れながら生徒や保護者のニーズに答え、地域から期待される学校として前進していくことが求められています。

本校の生徒たちは優れた能力を有しており、潜在化した能力を顕在化させなければなりません。そして、学校で学んだ多くの知識を生きていくための知恵に変え、社会の第一線で活躍できる人材育成に努めることが本校に与えられた役割であると思っています。

同窓会の諸先輩の方々にはこれからも函中の後輩を温かく見守っていただくとともに時には厳しくご指導いただくことをお願い申し上げます。白楊ヶ丘同窓会東京支部が今後大いに発展されていくことを祈念いたします。

第31回 親睦大会 報告

平成19年11月10日(土)に開催された親睦大会の様態を担当期77期の若生直氏が報告します。

「青春の詩、そして故郷函館」という企画の和やかで楽しい大会でした。

“出席者みんなが主役”のイベントに、誰もがその時函中生に戻り、会場は懐しい雰囲気に取り込まれました。

昨年の親睦大会は、50歳になった卒業期が幹事を担当する形式になって、三回目の大会でした。これまで、コンサートや講演などがアトラクションの中心でしたが、私たち77期幹事団は、新しい試みとして、同窓生参加型のアトラクションを企画いたしました。内容は、戦後の時代の流れを象徴する歌を皆さんに歌って頂くと言うものです。また、青春時代を過ごした、懐かしい「函館の歴史」も映像として見ていただくことにしました。この新企画には、多数の77期生の協力が必要でしたが、特に音楽部OB・OGを中心に歌声応援団の結成、77期全員が歌を覚えるため、準備会や歌の練習会に多数の参加者を得ることができました。出来る限りの準備はしたつもりですが、当日は、雨模様であったり、また、初めての企画に皆さんの賛同が頂けるか、多少不安な気持ちで開会を迎えました。しかし、同窓生皆様の熱い気持ち



すべての杞憂を吹き飛ばし、思い出に残る大成功の親睦大会となりました。以下、詳細を報告させていただきます。

総合同会は、77期の大鹿栄樹氏と松尾(中川原)優子さんが務めました。大鹿氏の開会宣言の後、先ず、旧制中学出身の52期以前の諸先輩方に登壇して頂き、全員で同窓会歌(函館中学校校歌)を斉唱、函中の歴史と伝統を感じさせる始まりでした。歌唱指導、77期・青木和彦氏、ピアノ伴奏は、77期・島津路郎氏です。その後、この親睦大会を最後に退任される61期・金子公彦支部長よりご挨拶がありました。四年間の在任期間の課題であった 財政の黒字化 定時制の方々の参加 若年層の参加による活性化に一定の道筋がつけられた」と、充実感に満ちたお話があり、次世代を担う者にとって大きな励みとなりました。続いて、新支部長に就任する67期・安田新支部長



安田新支部長
「白楊ヶ丘同窓会をさらに楽しい会にして行きたい。」との決意表明

があり、東京支部の新たな展開が予感されるお話を頂きました。司会より、参加頂いた20名の来賓紹介があり、来賓を代表して、白楊ヶ丘同窓会長、三ツ谷富夫氏、函館中部高等学校校長古林由則先生からご挨拶を頂戴しました。三ツ谷会長からは「新しい時代に対応するため、同窓会の法人化を目指し、記念館の安定的な維

持、楽しい同窓会づくりを展開したい」とのお話があり、古林校長先生には、最近の学校の様子を紹介して頂きました。全日制陸上部の一年生が、北海道代表として国体に参加し、女子400mリレーで全国優勝の結果を残した。定時制の四年生が北海道定通制高校生活体験発表会において優勝、全国大会に出場する。また、この五年間、文部省よりスーパー・イングリッシュ・ラングエッジ・ハイス쿨の指定を受け、徹底した音読・暗写で英語教育に大きな成果を残している」などのお話は、東京で暮らす私たちにとつても、大きな誇りとなりました。続いて、毎年益々お元気でいらつしやる



「乾杯!」35期佐藤さん
35期・佐藤洋氏の音頭で乾杯、歓談に入りました。この間、今回初めて参加頂いた定時制61期村上八三氏より「同期の友人と会社を設立、函館の絆は、大切」とご挨拶があり、東京でも全定の区別なくおつき合いが出来る喜びを感じた次第です。

歓談後、いよいよアトラクションの時間となり、進行役は、77期・伴(工藤)孝子さんにバトンタッチされました。伴さんの「77期全員集合!」の明るい掛け声で、36名の77期が全員登壇し、「ふるさと」のハミングの中、「ここに参加された皆さんは、函館の街で青春を過ごした仲間!同窓生が繋ぐ歌で楽しい一時を過ごしましょう」のナレーションで、懐かしいメロディのリリースがスタートしました。77期歌声応援団が各期の同窓生のテーブルをまわり、ステージでは昔懐かしい学生帽をかぶった77期合唱団が、会場の皆さんと一緒に各期の卒業生の青春時代を代表する昭和の名曲を歌いました。ピアノ伴奏は、プロの演奏家である緒方先生にお願いしました。前半の曲順は以下の通りです。リンゴの唄(35期) 青い山脈(54期) 57期) 雪山賛歌(58期) 61期) 上を向いて歩こう(62期) 65期) 高校三年生(66期) 69期) いつでも夢を(70期) 72期) でした。最初は、歌声応援団も少し照れがあったりしましたが、心に残る名曲が続くうちに会場全体がとも和やかな雰囲気に包まれ、皆さんの爽やかな笑顔で青春時代が戻ってきたような気持ちになりました。一緒に歌うことで、これまで少なかった世代間の交流ができ、それがアトラ



大会担当期77期の皆さん



同窓会歌斉唱
れまで少なかった世代間の交流ができ、それがアトラ

クシヨンの盛り上がりにつなぐたと思えます。休憩中「函館港祭り音頭」が流れ、64期・佐々木中村)京子さんを先頭に、何十年か振りで踊りました。佐々木さんには「懐かしくて思わず自然に身体が動きました」と喜んで頂きました。また、歌の最中に放映されていた「函館の歴史」を映した写真を、伴さんの解説で大型プロジェクタに再上映しました。会場では「昔の函館だ、懐かしい！」と声があがり、大きな注目を集めました。編集は伴孝子さんと馬場剛氏が担当し、力作となりました。

後半は 虹と雪のバラード(73期)76期)に始まり、77期の 戦争を知らない子供たち いい日旅立ち、と続いた後 北国の春(78期)87期)さらに、春に卒業したばかりの109期生に登壇してもらい、世界に一つだけの花(88期)109期)を熱唱しました。締めは、やはり 函館の女、沢山の方々に登壇して頂き全体合唱となりました。会場の雰囲気は、最高潮に達し、世代を越えて、故郷、函館」を愛する一時を過ごすことができたと思えます。熱気に包まれ、爽やかな余韻が残る中、関西支部山川泰宏氏より、アンコールとして「千の風になつて」がリクエストされました。阪神淡路大震災から十数年が経過し、命と希望そして祈りの活動を続けている。とのアピールの後、全体合唱となりました。この時、会場全体が一つになったような気がします。共に函館の街で青春時代を過ごした仲間が、まるで家族のように温か



- 昭和8年卒(35期) 佐藤洋
- 昭和16年卒(43期) 井筒吉彦 神山茂郎
- 続豊 安岡修一
- 昭和18年卒(45期) 池上謹之助 田沼修二
- 昭和20年卒(47期) 堀田善和
- 昭和20年卒(48期) 渡辺丞二
- 昭和25年卒(52期) 井上稔 瀬田松吉昭
- 長島康 東川正秀
- 福津達男 吉川進
- 昭和26年卒(53期) 多和田裕
- 昭和27年卒(54期) 雨宮昭一 遠藤宏
- 金谷稔 小宮山恵三郎
- 澤口幹男 高橋邦年
- 杉田(近藤)博子
- 昭和28年卒(55期) 赤澤高 阿部健
- 栗崎健一
- 昭和29年卒(56期) 浅岡勤 加藤正秋
- 藤本一郎
- 昭和30年卒(57期) 荒川博 鶴島克孝
- 隈井(進藤)薫
- 櫻庭晃 末松一
- 武田有弘 宮川昌三
- 松川(原)澄子
- 村嶋(大竹)泰子
- 吉田精吾
- 昭和31年卒(58期) 五十嵐克至 小川英夫
- 井口(上野)久美子
- 岩間征一郎 近藤好介

親睦大会出席者一覧

(青山ダイヤモンドホール)

- 坪田憲俊 永野巖
- 杉沼(高月)浩子
- 広田洋吉 藤原正樹
- 早川(岡)光江
- 宮川(重野)美智子
- 昭和32年卒(59期) 笠原静雄

- 昭和33年卒(60期) 北原耕太郎
- 宮川(成田)満子
- 昭和34年卒(61期) 金子公彦 菊池紀邦
- 佐々木住明 橋本正夫
- 畑中万弘 三上洋一
- 三上(清水)和子
- 水島(木村)晴江
- 村上八三「定時制」
- 昭和35年卒(62期) 池上拓磨 小松康宏
- 松本光平
- 昭和36年卒(63期) 石崎篤子 関賢
- 土橋(山本)道子
- 中村崇
- 昭和37年卒(64期) 上田健司 大原淳一
- 菊地崇行 関英夫
- 佐々木(中村)京子
- 昭和38年卒(65期) 小嶋正歳 千葉恵寿
- 昭和40年卒(67期) 加賀幸彦 相馬研二
- 花海吉夫 松田幹夫
- 宮川憲司 安田康次
- 昭和41年卒(68期) 越中谷庸三 内藤和明
- 大河原(小沢)綾子
- 白崎淳一郎 山本晴義
- 横田依早弥
- 昭和42年卒(69期) 梅田五郎
- 梅田(上野)やよい
- 斎藤(三上)裕子
- 昭和44年卒(71期) 市澤仁美 小倉清春
- 加納元雄 川村哲雄
- 佐藤昭治 相馬篤





閉会の三本締め 音頭は99期朝緑さん

て、親睦大
謝申し上げ
に心から感
頂いた皆様
の皆様を始
め、ご協力
した。理事
の報告と
致します。

い時間と空間を共有しました。あつという間に時間が経ち、宴も終盤を迎え、新人会員である109期(9名参加)の紹介に進み、長尾さんが代表で立派な挨拶をされました。若い世代が東京で活躍する姿を期待しています。続いて来年の幹事期である78期を代表して、垣坂清氏から「音楽系のイベントを計画中」とお話がありました。最後は、やはり参加者全員で校歌斉唱、77期は全員登壇し、肩を組みながら高校時代の思いを込めて歌いました。懇親会の締めめの音頭は、99期・朝緑高太氏にお願いし、今後を担う若い方達の活躍を予感させる力強い三本締めでした。ここで散会となりましたが、皆さんの若々しい笑顔が、この親睦大会に満足して頂いたことを物語っていたと思います。

尚、参加者にはお土産として、函館在住で北海道製菓を経営されている42期・宮本寿一氏から毎年寄贈されているクッキーと、77期・小笠原康正氏(テオー小笠原)より寄贈されたガラナシヤンパンなどが手渡されました。

幹事期の大役を終え、安堵の気持ちでいっぱいです。今回、改めて同窓生の絆の大切さを実感しました。理事



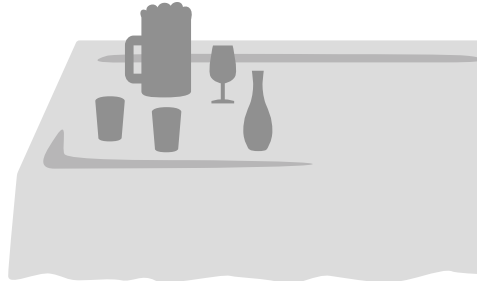
馬場剛 牧野静六
根岸(佐々木)満恵
西島(藤沢)弘子
中川(市澤)若英
田中(納谷)梯子
高橋(兼子)美津恵
鈴木達哉 瀬戸隆
柴田順行 城近義行

相澤有一 青木和彦
伊藤肇 大鹿栄樹
伊藤(山本)義子
小倉正信 加藤宏明
小野(祭主)裕子
鎌田巧平 小林広武
桐原(小川)和子
小山はるみ 酒谷忠嗣
櫻井(井辻)久恵
佐藤かつみ 佐藤勉
佐藤(鈴木)教子
柴田(湯浅)君恵

松浦明
竹埜正敏 平井正夫
白川正広 曾我正彦
赤坂彰彦 片野則夫
昭和49年卒(76期)
祐川伊左久 吉川忠幸
桑原洋子 笹市英昭
菊地(松本)恵子
昭和48年卒(75期)
田澤博美 山田朗
昭和46年卒(73期)
若林清史

善(佐野)順子
昭和45年卒(72期)
加藤哲夫 神垣善一
菊池佳裕 小林繁治
佐野(小岡)香苗
谷口雅典 丹羽修
村上誠一 村田秀樹
若林清史

若生直
昭和51年卒(78期)
岡部(三浦)あさ子
垣坂清 島津路郎



第31回・東京支部

(平成19年11月10日)

鈴木健志
平成18年卒(108期)
永田明日香 住吉未久
平成19年卒(109期)
岩戸景太 上田遼平
遠藤康平 恩田和音
長尾麻里菜 橋本真樹
宮岡萌江子 山羽南海子

小林秀輝
平成17年卒(107期)
真酒谷圭介 小林令
佐藤伊織 田村桃衣
高波恵美
平成9年卒(99期)
朝緑高太
平成15年卒(105期)

高坂拓也
平成4年卒(94期)
山形リサ
平成7年卒(97期)
松川文弥
平成8年卒(98期)
田口(新沼)志保
昭和60年卒(87期)
松永久
昭和56年卒(83期)
野呂(山本)勢子
昭和54年卒(81期)

高橋邦明 長澤一徳
塚本(伊藤)良子
松田司 宮崎恒春
山内(藤島)清美
吉崎(丸山)加代子
斯波宇司
昭和52年卒(79期)
齋藤泰
藤本(林)双葉
昭和53年卒(80期)
片瀬裕巳 齊藤聡
西谷尚久 渡部一己
野呂(山本)勢子





参加者全員が熱唱した
「青春の詩」



ひとりひとりに
それぞれの青春が
蘇ったひととき...



77期のリードにより
誰もが青春時代に
タイムスリップしました。



紙面から熱い歌声が
聴こえてきませんか!?

新東京支部長安田君へ

戦後の昭和21～22年の生まれ、世に言う団塊の世代の半歩前に行く我々、多感な時を多くの同期生、先輩、後輩と共に学んでいたのは昨日の出来事の様である。当時の事を思い起こす度に「お前たちは函中の歴史で一番頭の悪い期だ」と諸先生から叱咤激励(?)された画像が炙り出されてしまう。中にはひょっとしたら優秀なやつも居たかもしれないが、頭の良し悪しは別として妙に、本当に妙に団結力の有る期でもある。昭和40年卒業の一团、志丸会(しまるかい)と称す。たいした力のないやつ程自然に団結するものだと口の悪い吾人に言われるかもしれない。しかし良く考えてみれば函中と言う諸先輩が築き上げた脈々とした歴史と素晴らしい一团の中で生かされていたと言ったほうが正しいのかもしれない。その大きな器の中のほんの小さな一团から安田君が東京支部長を拝命した事聞き大いに喜びと同時に歴史の流れを感じざるを得ない。卒業後夫々自分の道を歩みながら一生懸命生きてきたはず。多分その時は函中を忘れていた時間も多かったと思う。だが同期の一人が大役を引き受けたと聞くにつけそんな年齢になっただけかと思いつつ母校の血流が強烈に感じられ何となく深息をついてしまった。歴史を繋ぐ大役でもあり、新たな歴史を作る役目でもある。頑張るに欲しい。我が母校の言葉で表すことの出来ない魅力を先輩に学び後輩に伝えて欲しいと念ずるところである。かつて諸先生の言われた期の代表者の如き私が投稿するのはちょっと憚る思いではあるが、安田君の今後の活躍と白楊ヶ丘同窓会の更なる発展を念じながら一筆啓上。

67期(昭40年卒) 富原裕二

「とみ原」
函館市本町1-28 第大栄ビル2F TEL.0138-31-5088
19:00~1:00 年中無休 五稜郭で有名芋焼酎が飲めます!



第32回大会へ向けて
78期の挨拶

随想

わが故郷

—函館・街・人・思い出—



母校回顧 昭和初期の風貌

34期（昭和7年卒）
東浦 義雄

北海道庁立函館中学校 これが旧制函中の正式の名称である。当時は小学校六年までが義務教育で、しかも共学制にはなっていないから、全市にただ一校しかないこの中学校へは、厳しい入学試験を経て市中の各小学校からエリートとみなされるような男子が集まった。筆者と同年年の人たちは、難関とされた海兵の入試に四年修了でストレートに合格した中村君や、湯倉神社の宮司の息子の三上君、後年オーシャンで活躍した伏見君などがいた。

創立は明治28（1895）年で、当初は元町に建物があったが、同年に現在の校地に移転し、校舎が新築されて、大正・昭和と引き継がれた。昭和9年の大火では、千代ヶ岱（当時）あたりで火が止まったため類焼を免れたのは幸いであつた。

昭和一桁の年代の頃は、現在の「千代台」の近くにあつた停留所から函中までの一本道の両側には人家が続いていたものの、ところどころで家並みが途切れるほどの戸数に過ぎなかつた。

正門の少し手前の通用口から校庭に入ると、左手に石造りの立派なご眞影奉安所があつた。登校してきた生徒は、教室に入つて自分の机にカバンの中のをいれると、直立して奉安所に向かつて敬礼をするのが義務付けられていた。

校舎はコの字型の木造二階建てで、中庭にテニスコートがあつた。第一学年から第五学年まで、それぞれ二五〇名が在学し、各学年とも五クラスに分かれていた。学年が変わることに教室も移動し、その都度新鮮な感覚に浸された。校舎の外れから、簀の子の渡り廊下をへだてて、木造の雨天体操場があつた。奥の壁の上方には、本校のモットーの「白楊魂」という文字が筆太に書かれた横長の額が掛かつていた。函中には椅子などを並べた講堂のような建物は無く、この体操場が入学式や卒業式を行う式場となつた。当時の生徒は体力も忍耐力も今よりすぐれていたせいから、二時間ぐらひは立ち通しても疲れた様子はみせなかつた。

函中六年間の思い出

52期（昭和25年卒）

福津達男

「代返500回以上」

何故か最近集まる機会が多く、遠い昔が近く感ずるようになったのは年のせいだろうか。

二上君の骨折全快祝と私の入院四回の出所祝いと言う事で同期の連中が集ってくれた。酔うと決って、学校時代の秘められた話に花が咲く。五十過ぎてから酒を飲み出し、どんどん酒量が増え今では一升近くも平気である東川君が「俺は福津の代返500回以上もしたものだ」と大声を上げた。まさかそんなにも思ったが一日三つ四回したらそんな数になるのだろうか。

今は代返する人はいないだろうし、代返そのものが死語になっていくのかも知れない。

代返は友情の絆だけでなく勇気のいる事だ。深々と頭を垂れ友人に感謝しながら六年間の函中生活を思い出してみる事にした。

「右の者、退学を命ずる」

昭和19年4月、北海道庁立函館中学校に入学。筆記試験ではなく口頭試問で体力テスト等三日間、桜の花を人の心に喻えるならば、とか、二十糶の割り箸で作る直径の円周と半円の面積はいくらか、というものであり、最終日は飛び箱とマットの上の回転、投擲であった。サイパン島玉砕。レイテ沖海戦

全滅。東条内閣総辞職と敗戦の色濃く、街には横文字が消えていった。蓬萊町にある松田千秋庵の隣に「ルル」という瀟洒なレストランがあった。誕生日だけ母が連れて行って食べさせてくれたコキユールの味が忘れられない。その店も何時の間にか「轟」という名に変わった。

函中には錚々たる英語の先生が居られた。

丹治（ムーン）水野（スモール）橋本（ロング）鈴木（モンヤ）中にはよく分らず悪童の餌食になり総攻撃される先生もいた。幾何は浅間、漢文は古谷（ゼツペキ）安保先生、物象1（地学・物理）物象2（化学）大竹（ブツカイ）、歴史は西洋史、東洋史、日本史に分れており、高島（ボンズ）の中国変遷の物語に目を輝かせながら聞き入った。夏・殷・周・春秋、戦国時代：中華民国時代。教育勅語、軍人勅諭は忘れてしまったがこれだけは不思議と全員覚えていた。

学校迄、青柳町から四〇分位、毎日徒歩で通う。最初ゲートルを巻くのが苦手で歩く中にほつれてくるのには往生した。ズボンのポケットは手を入れてはいけなさと縫わなければならぬし、折り目があると軟弱だと殴られ、敬礼の仕方が悪いと殴られる日々が続く。時々二、三年上の上級生が気合を入れて教室へやってきては目立つ生徒をいつも殴って帰る。そんな悪習を戦後、一年上の先輩が断ち切ってくれた。

毎週月曜日の朝礼は三〇分、玉砂利を敷いた中庭で素足で行う。

夏は石が焼けるように熱く、冬は冷たく凍る様に痛い。

真冬の雪中行軍は真夜中に学校を出発して湯川、下海岸伝いに吹きつける雪まじりの冷たい風に耐えひたすら歩いた。身体のおもむきで冷えきり、途中で食べたおにぎりは凍りついてた。翌朝七時頃、柏野練兵場にたどり着き一時間訓示を受け最後に匍匐前進で解散した苦しい思い出が残る。

一学期も過ぎると学校生活にも慣れ互いに観察する余裕が出来てきた。段々エスカレートしてから、を取り出して品定めをする解剖というのが流行った。形、大きさよりも中にはうつつすらと或はと生え揃っているのには驚きであった。級には六人前後、一つ上、二つ上の連中がいたのだから無理もない。漱石の「坊ちゃん」から森鴎外の「エタセクスアリス」と歩み始めた誰でも通る道であった。

一年一組、上田（タコ）先生の級私の前には貴公子然として二上君が居り数学、特に幾何が得意であった。後には銭亀沢出身のH君が居た。十年振りて村から函中に入ったという事で、村長さんが祝の会を開き日の丸の旗を振って見送ってくれた。彼は試験日になると決って特大のスルメを持ってくる。私の答案用紙と交換する為である。あの頃は特に食べ物に弱かった。

或る日、柔道の時間、I先生のアダ名を掛け声にした。カンカンに怒り、「すぐ教室へ戻れ」と説教が始まり、「私のアダ名を言った者は立て」となった。気まずい時間

が過ぎ誰かが名のらなければ収まりがつかない状態であった。

高橋光明君が立ち上った。彼は二つ上、朝四時から起き豆腐をつくり、弟妹の面倒をみてから学校に来る。すでに大人の世界に入っていたのだ。すかさずH君が立った。内心正直でよろしいと思つたのかも知れない。しかし「即刻退学を命ずる」であった。

泣きじゃくるH君を見て皆つむいてしまった。殆んどの人が言つたのだから全員手を挙げたら退学という事にはならなかつただろう。私も含め勇気がなかつた。二人が犠牲になつたのだ。後の席は何日か空白が続いて級に重苦しい空気が漂つた。結局H君の親父さんが謝罪、四・五日で二人は復帰、拍手で向かえ皆安堵する。

やがてストーブの廻りには弁当箱が重なりマントに薪を隠し、ラグビーに夢中になつて一年が終わつた。（次号へ続く）



古希に母校を訪れて

58期（昭和31年卒）

佐々木 政良

古希を迎えた平成19年の夏、仙台市を出発して久しぶりに函館中部高等学校を訪れた。津軽海峡のトンネルを抜け、車窓から海を眺めると、左方に函館山が見え、港から緩やかな曲線をしながら江差方向に伸びている海岸線が見えた。右方には道路に沿って遙か彼方まで山々が連なり、目に映る草花は、濃淡が鮮やかで、絵の具では塗りつぶす事の出来ない万物の生命の色や美しさが故郷の大自然を物語り、躍動する心と命の息吹を与えてくれていて、その変わらぬ眺めの中には哀愁の音や守り続けた郷愁の味があった。

母校を訪れ、ラグビー部に所属した、旧制の名残が残る昭和29年の時代を思い出した。国内は軍国主義から一変、アメリカ主導の自由民主主義が導入され、混乱が見られた。

学生の生活状況を落ち着かせ、校内を改善したいと思い、生徒会長に立候補し第58期の生徒会長に指名された事を思い出した。

就任時、大根田校長より「社会変革の狭間で学生の意識や生活も問題が山積していて大変な時期であるが、学生自らの力で何とか苦難に打ち勝って貰いたい」との激励を受けた。生徒会長になって直ぐに手掛けた事は、

1. 校則の強化と登校時間の厳守

で、1分でも遅刻した者は閉門し学校に入れない、

2. 校内に於ける生徒間のいじめや非行に対し生徒会が徹底した指導を計る、であった。

学生自らが規律を正し、従う事からのスタートであるべきだと強く感じていたのである。校門には柔道の先生で学生がジャクとあだ名して恐れていた板垣先生が立つてくれた。

数日間は遅刻して学校に入れない学生もいたが、やがて是正され、体育部や文化部の調和もとれ、学生は落ち着きを取り戻していった。襟に白いカラーのついた制服を着て高下駄を素足に履いて登校する、旧制のバンカラの時代を残しながら急変する時代に生きる学生の間には、引き継いだ道内有数の進学校としての伝統と誇りは生きて残っていたのである。その時代は、正義の善悪だけはハッキリしていて、陰険ないじめはまかり通らず、それを行う者が居ると我々友達が見過さず、弱い者も強い者も分け隔てなく友達として仲が良く、すがすがしい学生生活であったのである。

都電荒川線の散歩

67期(昭和40年卒)札幌在住

西堀 元朗

先日上京の折に、以前から一度乗ってみたいと思っていた都電荒川線に乗りました。荒川線は東京で唯一残された都電です。路線は



荒川区の「三ノ輪橋」から、新宿区の「早稲田」までの約12km。停留所は30箇所、所要時間は約1時間です。料金は均一の160円ですが、一日乗り放題の400円の券もあります。

当日は朝8時過ぎに、東の起点「三ノ輪橋」から乗車しました。早い時間に乗ったのは、通勤の様子を知りたかったからです。ここから乗ったのは7、8人と以外と少なかつたのですが、次の停留所から順調に乗客が増え、6番目の「町屋」で満員になり、乗り残しも出ました。「町屋」は地下鉄千代田線との乗り継ぎの停留所です。それが3つ先の「熊野前」で、今度はドツと降りて、また新たにドツと乗ってききました。熊野前は3月末に開通したばかりの新交通システム「日暮里・舎人ライナー」と接続しています。

このように終点の「早稲田」まで行きましたが、全区間を通じて割と短い区間だけ都電を利用し

て、地下鉄やJRに乗り換える人が多いようです。

「早稲田」の停留所近くでコーヒを飲んで時間をつぶして、ラッシュが終わった10時ごろに、今度は「早稲田」から元来たルートを戻りました。もうラッシュではないので、スーツ姿の人は少なく、乗っているのは作業服の人や、普段着のおじさん、おばさんたちです。和服を着ている人もいました。沿線に住んでいて、沿線に用事があるのでしょうか、通勤時よりも長い区間乗っている人が多いように感じました。乗っている人たちの、下町言葉の混じった会話も、楽しく聞かせてもらいました。

都電荒川線の車両は、日本全国で走っている市電と同じですが、違つのは線路沿いの景色です。特に「早稲田」から「王子」あたりは、線路の両側に住宅がびっしり建っていて私鉄沿線のようにでした。結構急な登り下りもあって、函館や札幌にはない景色ですね。このあと、「日暮里・舎人ライナー」に乗り、また有名な「巣鴨地蔵通り商店街」も歩いてみました。紙幅が尽きましたので今回はこの辺で失礼します。

シアトルの公立高校で日本語教師

68期(昭和41年卒)

児玉(旧姓中村)久美子

永年勤務した(株)日本航空インターナショナルから特別休暇を頂

き、2007年6月まで1年間、アメリカ・シアトルの市立高校で日本語教師をしてきました。ネーサン・ヘイル高校は日本の中学3年生から高校3年生まで約400人が通っており、第二外国語で日本語を選択している学生が100人いました。日本語のクラスは年齢に関係なく勉強した年度でクラス分けをしています。私は1年と2年目の学生の60人のアシスタントの他に、4年目の学生11人に日本語を教えていました。

日本語を選択した動機は「日本のアニメやマンガが好きだから」が一番多かったです。しかし現実には厳しく、エクストラ・クレジットで引き上げていましたが、期の終わりに1年と2年目で20人がフェイルしてしまいました。卒業までに最低2年間のクレジットをとる必要があり、3年と4年目は「日本語が好き」という学生が残っています。

アメリカは成績の悪い子をなんとか拾ってあげる教育なので、なんでも手がかかります。休んでテストを受けられなかった学生のため、漢字やリスニングやバックアップテストをしているので、昼休みはとて忙しかつたです。

日本語を教える補助教材がないため、毎晩夜中の1時までその準備をしていました。4年目は日本語で作文やエッセイを書いたり、カルチャープロジェクトをするので大変です。宿題を家へ持って帰ってチェックをする事もよくありました。5週毎に成績を郵送する前は、夜9時まで学校に残り成績

をコンピューターに入れる作業をしました。宿題やテストの成績や出席態度が評価されるので、学生は毎日大変良く勉強していました。新入生歓迎式や各種のアセンブリーは全て学生が企画運営します。学年毎に趣向を凝らして楽しい催しが満載でした。ハローウィーンには高校生も先生もアダムスファミリー等に仮装して学校へ来ます。食べ物を持ち寄り、売って各クラブの活動費にする催しでは、私の担任の男子がジャズをピアノ演奏し、女子2人が歌って楽しませてくれて、才能豊かだなと感じました。アメリカの高校生は勉強以外にも多様な顔があり、ほんとは楽しむことを知っています。

毎日とて忙しかつたですが、こんな催しがあると異文化に触れることができ癒されました。シアトルの高校で大変充実した貴重な体験ができました。



筆者は前列右から2人目

チエーホフの三人姉妹を観て

2008年4月6日

73期(昭和46年卒)

佐藤 好明

春爛漫の4月5日小野田和子さんの呼びかけで函中73期(橋本昌純、戸来伸一、三宅一俊、山浦晃、諸岡明、小林隆磨、上床セツ子、森山耐介、清水恵子、千歩優、大内裕子、大平博一、猪俣秀夫、渡辺浩、藤田明、徳野正巳、北川恵郎、名尾和幸、山田朗の諸氏)と連れだって、新宿紀伊国屋ホールで劇団夜想会の三人姉妹を見た。主演は原田大二郎で、メイ

ンキャストである次女の夫クルイギン役を我らの倉田秀人君が演じている。三人姉妹の舞台は今から100〜110年前のロシアの片田舎。斜陽貴族である三姉妹が革命前の社会不安に揺れるロシアにおいて、彼女らを取り巻く社会や人間関係に翻弄されるが、やがて今の苦しみが見る未来の礎になるのだという確信を抱くところから劇は終わる。前半はややだれるところもあったが、三女イリーナの未来に希望を持つという最後のセリフが感動的だった。合間には日本人にも人気の高いロシア民謡のコーラスもあり、「おー、道よ」という歌の歌詞に一つだけロシア語のブリーヤン(ステップに生えるイラクサなどの背の高い雑草)とあり、これだけでは意味が分からないだろう)リラックスできるような工夫もなされている。倉田

君はややユーモラスな役で劇全体にめりはりをもたせているし、彼の演技は非常に高いレベルで観客を飽きさせない。チエーホフの4大戯曲の一つであるこの三人姉妹のクライマックスは、劇の終り近くで長男アンドレイの妻ナターシャ(台頭しつつある庶民を示している)のセリフ「このモミの木を伐り払って、花壇にでもしようかしら」というところに示されている。モミの木がインテリ貴族を暗示しているのである。

ロシア人は男も女も誕生日を大切にしているが、19世紀には誕生日よりも名の日(自分の名前に因む聖人の日)の方を盛大に祝った。劇中倉田演ずる教師のクルイギンが校長にゴマますることばかり考えて

いて、日本人にはくどいなと感じられるところがあるかもしれないが、最近ロシアで出版されている革命前の庶民の日常生活に関する本では、特に役所の上司の名の日の祝いには3度上司の家にお祝いに伺ったことが書かれている。ま

(客の視線がメイソンの方に集中しないというこのほかに)。ロシアでは勝手に飲まない。飲むときは乾杯の辞をして一斉に飲むわけで、しかも名の日にはバラバラと飲むことはありえない。女性が乾杯の首頭を取れば(あるいは女性のために乾杯となれば)、男は全員席を立って敬意を表するのが普通である。

近況と回想

札幌在住 樋口 隆士 先生



函館山の麓、港の入口を見下ろす稱名寺の墓地には祖母と両親が永遠の眠りに付いています。父は「中部」の校長で退職後、駒場町に居を構え、母も人情の厚いこの街がとても気に入っていました。函館に出かけた折は墓参をし、時間が許せば谷地頭温泉の露天風呂に浸って往時を回想、札幌へ戻ることにしています。

「中部」には二度の勤務に恵まれました。初めは昭和37年度からの五年間で、印象深いのは一年から担任した68期(昭和41年卒)でした。昨年6月、首都圏からも加わった札幌での同期会に出席し、還暦の皆さんと再会、歓談しました。私は78歳、元気です。昨年7月家内が心臓を手術、上記同期会の今井浩三君(札幌医科大学長)の助言、配慮は有難いものでした。お陰で短い旅を楽しむまでになりました。

楽しみの一つは運動と気分転換を兼ねたサイクリング。よく北大構内や大通公園へ出かけます。エンレイソウやライラック、YOSAKOIソーラン祭り、さっぽろ雪まつりなど季節の花やイベントを撮影、知人にメール添付で送ります。昨年の同期会を機に何人かと連絡がつき、卒業以来の音信を喜びました。中でもヨットで単独世界周航をしている目黒たみを君からの返事はうれしい驚きでした。

さて、二度目は昭和49年度からの四年間、教頭を務めました。ハイライトは昭和50年の創立80周年記念行事。その頃部室で喫煙によるポヤがあり、巡視中、明治38年の竣工ながら活用されていた旧体育館のあと、隣接の倉庫で埃をかぶった扁額を見つけました。これこそ大正4年に揮毫され、長年、旧雨天体操場などに掲額されていた幻の書、一戸兵衛書の「白楊魂」でした。表装し直し校長室に掲げました。80周年記念誌は「白楊魂」と名付けられ、表紙の青地に白の書き文字はこれより写されたものです。

後年、創立百周年に先立つ二年前(平成5年)(現)校舎改築落成を機に記念碑「白楊魂」が前庭に建立されました。ここにも「扁額」の三文字の筆跡が刻み込まれています。泉下の一戸将軍も喜んでおられることでしょう。

樋口先生のメールアドレスは次の通り。
お便りいただければ幸いです。
hi-tak@r8.dion.ne.jp

同期会だより

第52期「喜寿の会」を祝う

小泉龍彦 記

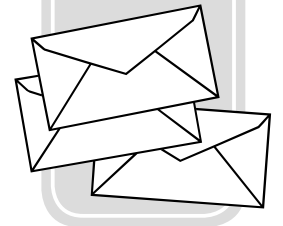
昭和23年みなと祭りが復活した。その歌詞に「港開けてナアホ イサツサ喜の寿の御祝いヨイとヤレコレサ」とあった。確か幕末函館と下田が開港、「喜寿」つてすぐ古いんだなあと、函中生だった私は初めて認識した。人生五十年、あわよくば還暦、の時代であった。

その我々が共に喜寿を迎え、昨秋に札幌で69名を集めた大会を、再び東京で早生まれ組みも同年齢となり14名が結集、四月十日ニュートキーヨーで氣勢を上げた。30年前の卒業35周年記念のテープを温存していた瀬田松君、恩師のアダ名を網羅した長島君のヒットでトップバッターから大ヒット感動感激だ。思えば我が時代は函中に旧、新制と続けて六年間学び波瀾の幕開けでスタートした。そして昭和四、五十年代にはまさに日本経済を立て興した面々だ。商社の井上君を始め吉川、加藤、渡部君と多士済々、また麻酔学の権威佐藤信君、水ブランクトン、渡り鳥研究の菊池君そして将棋界の頂点を極めた二上君と猛者が揃った。

今回唯残念だったのは玄羊会の

大看板福津君が胃ボリープの切除で入院中、病院からでも駆けつけるか等と情熱のある言葉も飛び出したほどだったが欠席は寂しかった。30年前の恩師の言葉に今更ながら成程と聞きいつたのは、在学中、進学適性検査が全国高校で行われ、当時の我が学年は北海道一位全国でも二十位以内に入った。結果として東北大、北大入学数は函中新記録を築いた立派な52期だったよつた。

昭和初期の活気溢れる若き函館がその背景だったのだらう、逞しい函館時代そのものだったと思う。サアテこれから。過日、逝去された阿久悠氏の言葉に「豊かな生



活の連続は人間の情感を奪い去って行く」とあったがそれでは駄目。玄羊会は情熱情感を絶やさず、白楊ヶ丘同窓会の中でもジヤマにならず君臨「花と香と常に伴う」心で進みたいものだ。卒業のとき安保先生からいただいた漢詞を噛みしめ「金蘭の交情人識るや、いなや、人生限りあり、道限りなし、誓って全力を奮って共に相酬（むくいん）に領き、まだまだ傘寿、盤寿、米寿ありだ、を約し会を終えた。

第60期 三・三会

北原耕太郎 記

私たちは、昭和33年卒業。よつて三・三会と称する。

今回の東京三・三会は、平成19年10月20日に東京都南青山の通称骨董通りの「青山クラブ」で、午後12時30分より開かれた。出席は男性22名、女性9名計31名であった。幹事の紅谷弘一君の司会により開会となった。司会の指名により、幹事の上平慶一君が開会の挨拶をし、歓迎の言葉と参加のお礼を述べた。続いて幹事長の内藤尚君が、本年9月28日、29日の2日間函館中部高校卒業50周年記念三・三会全国集会開催が、地元函館の多大なる尽力により大筋決定

した、東京三・三会も繰り合わせ出席いただき、50周年を盛大に祝いたい旨の挨拶があった。

小浜博明君の発声により、全員の健康を祝して元氣よく乾杯。開宴後も紅谷君の司会により進行する。

恒例の「お久しぶり挨拶」先ずは柿沢隆治君、奥さんは同期の旧姓若松ヒサ子さん。「毎年手をつないで来いやー」の声あり。つぎは村山彰君、本当に久しぶり、前回の出席は昭和の時代だったかな？元氣でよかった。水津秀夫君、毎年顔を見ている気がしたが、2、3年振りだったとか。

この後も紅谷司会役の当意即妙が冴えわたる。指名した人の1、2分の寸評、ピタツと掴んでいく。正に快調そのもの。気がついていたら、全員スピーチさせられていた。考えるに、いつもより出席者が10名ほど少なかったことを生かした進行で、近來にない楽しい会となった。紅谷君、美味しい料理を食べる暇もなく、本当にご苦労様でした。



全員のスピーチは、紙数制限により載せられませんが、何卒ご了承下さい。

例によって二次会、場所は地下鉄表参道駅近くのスパイラル。集まったのは29名ほどであったろうか、また延々二時間語り合ったことであった。それでは、9月28日50周年記念全国集会、大沼公園で元氣にお会いしましょう。

第7期 兵馬俑と万里の長城

西堀元朗 記

5年前に札幌から上海に渡ったT君を励ます、同期会「志丸会」の中国旅行は、今回で3回目です。前2回は上海旅行でしたが、今回は昨年11月1日から西安・北京に行きました。参加は、東京、函館、札幌からの16名（現地のT君を含む）です。

訪問したのは西安では兵馬俑「華清池」大雁塔、北京では「胡同」「天安門」「紫禁城」「万里の長城」「頤和園」「王府井」ですが、兵馬俑」と「万里の長城」を報告します。

【兵馬俑】西安と言えばシルクロードの出発点として有名ですが、今回の目的は兵馬俑（へいばよつ）です。ご存知の通り、兵馬俑は秦始皇帝のお墓を守るために埋められた、陶器でできた実物大の兵隊や馬です。

第1号坑と呼ばれる最初の発掘現場は、巨大な屋根で全体を覆っており、見渡す限りびっしりと陶器の兵隊がどこまでも並んでいる迫力は凄いです。兵馬俑はす



で8000体ほど発掘されてい
ていますが、全部発掘されるま
で何百年かかるか分からないそ
うです。

帰りに、この兵馬俑を最初に発
見した楊さんというおじいさん
に、買った本に記念のサインをし
てもらいました。

【万里の長城】「万里の長城」は総
延長6350kmあるそうですが、
我々は北京西方の「八達嶺」から、
比較的登り易い「女坂」を約1km
歩きました。ここは明代に作られ
た比較的新しい長城で、高さは約
10メートルで、幅は5〜6メー
トル。2〜300メートルごとに小
さな砦があります。秦の時代など
に作られた古い長城は、もっと規
模の小さい土塁のようなものであ
り、現在はほとんど残って
いないそうです。

この日は晴天の日曜日で、万里
の長城は人人人…。まさにイモ洗
い状態でした。しかも、優しいは
ずの女坂も結構アップダウンがあ
って、きついきつい。目標の第四

砦に辿り着くのに25分もかかりま
した。砦の上から、周囲の山の尾
根に延々と続く長城を見て、こん
な巨大な建造物を作る中国の桁違
いのスケールに、改めて驚嘆しま
した。

第68期 よいよい会

木戸正文 記

今年の例会は6月14日15日伊豆
熱川で行った。ホテルのシャトル
バスで14時過ぎに熱川へ到着。一
服して、「熱川バナナワニ園」へ行
く。看板のワニたちとソウガメは
爆睡中であつた。愛想なしだつた
がレッサーパンダやマナティ
が愛嬌を振りまいていた。この
施設は動物たちに目が行きがち
だが、むしろ熱帯植物園として、
植物の種類および管理面で第一
級の施設であり、見るべきもの
があると思う。

さて宴会は鯛づくしコースか
らカラオケ大会へと続く。ここ
らも歌い放題。時々よその宴会
のコンパニオン嬢(セーラー服、
ルーズソックス)が通りかかる
が集中、平均得
点94点、最高得
点97点なり。

翌日も好天気
に恵まれ、不知
沼(シラヌタ)
大杉ツアーへ出
発。この大杉は
林野庁の「森の
巨人たち100
選」に選ばれ、
天城の次郎杉と



もいうとか。鬱蒼とした森の中を
歩くこと約20分、さすがにでか
い。幹回り9m、高さ45m、樹齢
千年以上と推定されるとのこと。
そつと触れてみる。千年の霊力が
伝わるようだ。今年は源氏物語が
千年紀を迎えるというが、千年の
時間の経過を実感する。

次はモリアオガエル(天然記念
物)の産卵が見られるというシラ
ヌタの池へ廻る。歩くこと約30
分、横溝正史の小説に出てきそ
うな周囲2〜300mほどの池に到
着。モリアオガエルは木の梢に泡
で覆われた卵を産み付けること
で知られている。池には赤いお腹が
かわいいアカハライモリが沢山生
息しているが、オタマジャクシの
天敵だそうです。

精神的に萌え出でる新緑の植
物たちと、生存のためオタマジ
ヤクシの誕生を待つアカハライ
モリたち。自然の営みを天城山
中で見る。

今年のよいよい会は久しぶりの海
の香りと千年杉の霊力をしつかり
土産に頂いた例会であった。

第71期

加納元雄 記

今年の71期大会は、カラオケ店
パセラの銀座店で6月21日に開催
し、一・二次会合わせて29人が参
加した。

今回は新川小学校出身の中村興
治君、福岡(柳田)美知子さん他
が幹事になり、あちこち捜し歩い
た挙句見つけたのがこの店。会場
に入るまでは「カラオケルームで
大丈夫か?」と心配だったが、立
派なパーティールームで、料理もま
ずまず。この種の会場としては穴
場かもしれない。電動のビンゴゲ
ーム機もあり、幹事団が用意した
賞品を目指して、皆大いに盛り上
がった。

話題の中心は「孫」。孫に癒され、
励まされながら、余生と言うには



まだ早過ぎる日常を送っている仲
間が増えて来ているようである。
その一方で、同期のメンバーが
少しずつではあるが欠け始めてい
る。世代の交代は自然の摂理では
あるが、長年の付き合いが断ち切
られるのは、やはり辛い。
少なくとも今日の参加者は、次
回も元気で再会することを約し
て、雨の銀座を後にした。

第72期

佐野香苗 記

今年3月で函館市東京事務所が
撤退となり、2年間所長として赴
任されていた会田雅樹君の送別会
を兼ねて3月7日に同期会が開か
れました。遠くは神戸からミミこ
と笹川光代さんも出席。総勢18名
となりました。村田秀樹君のお世
話で住友化学の参宮寮にて、豪華
なふぐづくしと、料理に負けない
豪華メンバーで非常に「アカデミ
ック」な宴となりました。東海大
教授の加藤泰君の「会田君を送る
話」は函中時代の会田君との出会
いから始まり、大学紛争で痛んで
いた青春期の心模様へと…。私た
ちの心と記憶を思いつきり揺さぶ
りながらクライマックスの「送る
歌」へと導いて行きました。皆の
気持ちが出来上がったところで、
全員による合唱! う〜ん…! 久し
ぶりに「やられた!」感じでした。
「末席でもここに居られることが
光栄だわ」と言う女子の声もあり、
静かに上品に盛り上がり、心熱く
された同期会でした。会田君から
は、北海道産ワイン等の差し入れ

を頂きました。函館に戻られてからは企画室で次長として活躍されている様です。

4月1日には市議の竹花育子さんが私用で上京されたので、渡部敏雄君の招集で11名が新宿に集まりました。急でしたので参加したくても出来ない方もいた様でしたが、テニス部のタツタや由利さん、禎子さんはきつちりと顔を出していました。竹花さんは相変わらずパワフルでお元気そうでした。11月には函館同期会が予定されており、タイムスリップ授業も復活の兆し！楽しみです。



第73期
小林隆磨 記

第73期（昭和46年卒）の函館方面在住者は毎年新年会を開いているようですが、東京方面在住者は、函館のように定期的に集まることなく、倉田秀人君の舞台や米木康志君のコンサート（白楊ヶ丘

同窓会東京支部主催の演奏会含む）があるたびに何となく集まったり、2、3年に一度同期会を開いたりしてきました。それ故先輩方の期のような「火ばしら会」・「函中志丸会」といった名称もありません。

しかし、昨年より幹事役の小野田和子（旧姓 梅本）さんの呼びかけにより毎年1月の第4土曜日に新年会を兼ねた同期会を開くことになりました。今年で2度目。場所は地下鉄有楽町線「江戸川橋駅」近くの「居酒屋 加賀廣」。安くてうまくて新鮮。時々函館直送の魚介類が食べられる店でも超満員。実は小野田和子さんの弟で、我らの後輩梅本慎一君（第78期 昭和51年卒）が経営するお店です。近くへ立ち寄りの際は是非行ってみてください。（味もボリュームも勘定も申し分なし）



同期会は2度とも20人弱の参加と盛況（函館の同期会よりも参加者は多いのでは？）。会は初参加者（昨年は富岡総一郎君、今年は佐藤好明君、新田光三君。特に佐藤君などは高校卒業以来行方不明状態）もあり、高校時代の話、近況報告（子ども、孫、趣味等等）等で盛り上がる反面、同期生（八十住勲

君）や恩師（沼崎信夫先生）の早すぎる逝去の話も出たり（ご冥福をお祈り申しあげます）して、あつという間に時間が過ぎていき



4月には同期の倉田秀人出演の演劇に合わせて今年2回目の同期会を開きました。音信不通だった佐藤好明君からはロシア在住10年のキャリアを活かし、チエーホフ「三人姉妹」の観劇後の2次会では当時のロシア社会の解説を聞くことが出来、それを文章にまとめてもらいました（10ページ随想欄に掲載）。

第76期 あす76会
白川正広 記

ここ3年ほど同期で集まる機会が格段に増えてきた76期です。今年も、新年会に始まって、同期での行事が継続しています。

皆さん、まだまだ、仕事は「現役」ですので、年度の変わり目には、東京から函館をはじめ各地への転勤に遭遇するメンバーがあります。2年間、函館市の東京事務所勤務した西谷君もその一人で、4月からは、函館の古業に戻って活躍しています。3月にはささやかながら関係の深かった同期メ

バーでの送別会も持たれました。一方、1月、4月、7月、10月の「3の倍数+1」の月だけアホになるメンバーで（？）、開催が定着してきた、ゴルフの「あす76会」も、この4月で、14回目となりました。昨年の夏には東京の集団が函館・大沼に乗り込んで対戦。本来の「大会」の前後も含めて、3日連続プレーをこなしたエネルギーあふれる方もありました。

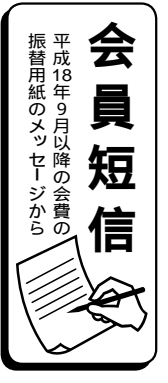
今年も、その勢いは衰えず、7月の「海の日」を含む連休を利用して、今度は、札幌に場所を移して、北海道勢との対決を予定しています。

今回も3連戦の中日には、「すすきの」で札幌在住の同期の皆さんとの集まりが企画されています。対戦と旅の疲れを癒し、二次会、三次会へとなだれこむ元気が残っているかどうか、76期掲示板で「実況中継」される予定です。乞ひご期待！
<http://www2.ezdbps.net/24/kanchu76th/>



物故者（敬称略）
謹んでご冥福をお祈りいたします。

- 小野 宣夫（35期・昭9年卒）
- 平成17年11月30日没
- 田沼 静一（42期・昭15年卒）
- 平成19年10月2日没
- 村山 正夫（42期・昭15年卒）
- 平成20年6月4日没
- 鶴沢 弘（45期・昭18年卒）
- 平成19年9月13日没
- 大屋 敬吉（45期・昭18年卒）
- 不明
- 高島 宇八（45期・昭18年卒）
- 不明
- 力石 正信（45期・昭18年卒）
- 平成18年10月没
- 中村 哲夫（45期・昭18年卒）
- 平成19年11月13日没
- 田端 英一（48期・昭20年卒）
- 不明
- 高砂子 滂（48期・昭20年卒）
- 不明
- 本庄登志彦（48期・昭20年卒）
- 不明
- 三沢雄三郎（48期・昭20年卒）
- 平成17年10月3日没
- 山村昭七郎（48期・昭20年卒）
- 平成18年5月2日没
- 工藤亮二（51期・昭23・24年卒）
- 平成18年2月4日没
- 田中 辰雄（61期・昭34年卒）
- 平成19年8月28日没
- 前 良一（62期・昭35年卒）
- 平成19年7月29日没
- 田口 隆治（66期・昭39年卒）
- 不明
- 高橋小黒（光子）（70期・昭39年卒）
- 不明
- 川添 栄治（71期・昭44年卒）
- 平成20年3月10日没
- 千葉 秀夫（71期・昭44年卒）
- 平成18年10月30日没
- 貞方（佐藤）泰子（76期・昭49年卒）
- 平成20年4月29日没



会員短信

平成18年9月以降の会費の振替用紙のメッセージから

河村 泰平(39期・昭12年卒)

先般展覧のため帰函の折り、五島軒若山社長と話が整い、小生の拙画「グランド・キャニオン」40号を額装にて御寄贈しました。

五島軒訪問の校友諸氏は何卒御笑覧下さいますようお願いいたします。同期の大沼さんの作品、郷土の大先輩田辺三重松氏の大作もあり、ちよつとした美術館になっております。又、湯の川プリンスホテル渚亭にも拙画一点寄贈の予定です。

古川龍之介(46期・昭19年卒) 齢80を超え大分くたびれてきました。各位も同様と存じますが残りの人生を楽しく過ごせるようお互いに頑張りましょう。

山田 宗充(47期・昭20年卒) 函館は良い街でしたし、函中も良い学校でした。同窓会の発展を祈ります。

篠田 作衛(48期・昭20年卒) 「無沙汰申し訳ありません。鞍部を捻挫して不自由しておりまして。治癒しましたので今後は皆様との親交を再度心掛けます。

寺井 滋(49・50期・昭21・22年卒) 東京白楊だより楽しく読んでます。旧制中学卒業後60年。人生の短き事を深く感じています。良い勉強、教えを受けたことを感謝しています。

小熊 勇司(52期・昭36年卒) 自宅の居間に笠島さんの函館港

を背景とした聖ハリスト教会、その隣に小さく私の出た遺愛幼稚園が描かれた絵が、75歳になった今も飾ってあります。

高木 幸子(55期・昭28年卒) 中部高校の母の会が今も活動しておられるとの記事、懐かしい思いで読みました。文化祭で亡き母に初めて化粧水を買ってもらったのを思い出しました。

滝沢 滋子(55期・昭28年卒) 寄る年波に勝てず、静かにしております。皆様のご健康を祈っております。

浅岡 勤(56期・昭29年卒) 同窓会も高齢化して我々も日常の活動が難しくなってきました。かつて同窓会の中核として働いていた鈴木進が昨年、9月には奥平忠志が亡くなり、さらに辛くなりました。

藤本 一郎(56期・昭29年卒) 今年もまた、同窓会に参加できることを感謝しております。

越後 明(57期・昭30年卒) 11頁の記事(同期会だより)を懐かしく拝読しました。

小竹 嘉子(57期・昭30年卒) 毎年白楊だよりは楽しみですが発行するのは大変な努力が必要だと思います。今後の発展を祈りつつ。

隈井 薫(57期・昭30年卒) 7月14、15日の場中学の3年F組クラス会で帰函。楽しいひと時の翌日夜は野外劇。想像以上にスケール大きく素晴らしいかったです。

唐沢フミ子(59期・昭32年卒) 会報いつも楽しみに拝読しております。

松谷 克(59期・昭32年卒) 忙しくて「無沙汰」しており申し訳ありません。皆様によるしくお伝え下さい。

伊藤 紀子(60期・昭33年卒) 白楊だよりありがとございます。平成20年は卒業して50年になり、大沼で節目の会が企画されているとの事。ご苦労して動いて下さっている方々に感謝しています。

上平 慶一(60期・昭33年卒) 家裁調停委員、専門学校講師など社会貢献をして頑張っております。

武田 至正(60期・昭33年卒) 東京支部ではお世話になりました。札幌に転居しました。

久保田 玄(60期・昭33年卒) いつも出席できませんが、会報楽しみにしております。

佐々木孝吉(60期・昭33年卒) 同窓会も益々発展して嬉しいことです。また現役で仕事中心なのでなかなか出席できません。

正津 禎男(61期・昭34年卒) 少なくとも毎年1回は帰函しています。帰る度に朝市等で新鮮な食べ物を楽しんでいます。この朝市以外は何やら寂しげな感じがしています。昔の様な活気のある街に戻ってもらいたいものです。

藤倉 信子(62期・昭35年卒) 会報いつもありがとございます。御盛會をお祈りします。

石崎 篤子(63期・昭36年卒) 夏に、札幌発深夜バスに乗り、早朝函館駅着、塩ラーメンを食べ帰ってきました。

佐々木敏信(63期・昭36年卒) 元気で頑張って仕事をしています。同窓会の現況を知り得て感謝しています。

鶴岡 和夫(63期・昭36年卒) 9月22日函館に行き、火柱の会のメンバーと楽しく会食をしました。網野が音頭をとり、安達、渡辺親夫、遠藤、石井、白戸、関、中尾です。やはり同期と気軽に青春を語り合うには地元函館が最高です。帰りに盛岡に行く為「なっちゃんRera」に乗りました。

1時間45分津軽海峡も近くなりました。

澁谷 吉昭(63期・昭36年卒) 今年は北海道の山、羊蹄山と利尻山に登ってきました。

杉沢 雅(63期・昭36年卒) 囲碁と温泉と下町の居酒屋めぐりを楽しんでおります。

中村 良誠(63期・昭36年卒) 白楊だより今回も隅から隅まで楽しく読ませて戴きました。恩師は勿論ですが同期生の名前をみつけては懐かしい函中時代が昨日のように蘇ってきます。

八木 幸夫(65期・昭38年卒) 元気でやっています。

上原 勝雄(66期・昭39年卒) 昨年から函館に年2回(各3週間位)滞在して定年後を満喫しています。

広瀬 貞子(67期・昭40年卒) 会報興味深く拝読しました。ウルマンの「青春とは「素晴らしい詩ですね。年ではなく真の青春は精神の中に」納得です。重松 健二(68期・昭41年卒) 掲載の写真に名前を入れていた

だくとありがたいです。あまりに変わっているの(笑) 河村 裕(69期・昭42年卒) 定年を1年半後に控え、高卒、大卒時に増して進路や生き方を考えなくてはと思うこの頃です。

板垣 裕則(70期・昭43年卒) 団塊世代もようつたそがれ。達者で行きたいです。

川村 哲雄(71期・昭44年卒) 平成19年度の同期会を6月16日ホテルグランドパレスで開催しました。参加者は一次会二次会合わせて30名。函館から五稜郭の「居酒屋けんちゃん」のザツケンこと佐藤健一君と歯科医開業の村中茂君が参加。ザツケンを囲んで14名が三次会に残り、延々8時間の宴でした。

長久保敏雄(73期・昭46年卒) 今年4月から9月まで介護休暇をとり実家に単身赴任しました。田舎は時間がゆっくり流れます。

山本 恭之(79期・昭52年卒) 現在熊本県宇土市で単身赴任中。

黒岡富久子(80期・昭53年卒) 白楊だよりありがとございます。卒業からそれなりの年月が経過し、函館との数少ない接点の一つとなつています。懐かしさと感謝を込めて皆様のご健康と活躍を心からお祈り申し上げます。

山本 誠(85期・昭58年卒) 中部高校を懐かしく思っています。

酒井 耕一(86期・昭59年卒) いつも会報楽しく拝読しています。東京支部の発展を祈念しております。

ります

平成20年度 評議員会報告

日時・平成20年4月21日(月)
場所・インテリジェントロビー・ルコ
出席者・33名

会議に先立ち、安田支部長から「支部長を交代し役員の若返りも図った。引き続き、各位のご支援により会を盛り上げていきたい」との挨拶があった。
以下の議案について審議し、全議案とも承認された。

平成19年度事業報告
加納副支部長
親睦大会、会報、HP、渉外活動、同好会活動等

平成19年度収支実績および 平成20年度予算(単位:円)			
	19年度実績	20年度予算	
収入の部	年会費収入	1,966,000	2,100,000
	大会費収入	1,480,000	1,480,000
	会員からのご寄付	179,000	80,000
	その他	155,177	120,000
	合計	3,780,177	3,780,000
支出の部	大会関連費用	1,466,376	1,620,000
	会報関連費用	1,048,026	909,000
	諸会議費	231,356	176,000
	通信運搬費	191,520	190,000
	本部派遣費	217,990	150,000
	事務所諸費	300,000	300,000
	その他	373,679	435,000
	合計	3,828,947	3,780,000
差引収支残	48,770	0	
次期繰越剰余金	4,749,301	4,749,301	

平成19年度収支予算案
加納副支部長
役員の変動および選任の件
討したいと説明した。

加納副支部長
親睦大会、会報、HP、渉外活動、同好会活動等
平成20年度収支予算案
加納副支部長
昨年度の実績を参考に収支均衡予算とする。
広告宣伝を会報に載せて収支増を図る御意見が出されたが、会報のページ増により郵送費増となる、他に良い方法があれば検討したいと説明した。

加納副支部長
親睦大会、会報、HP、渉外活動、同好会活動等
平成20年度収支予算案
加納副支部長
真船監事の監査報告を確認
平成20年度事業計画案
差引収支残(48,770円)
真船監事の監査報告を確認
平成20年度事業計画案

平成19年度収支決算報告
片瀬理事
年会費納入(652名)、46期以前の会員の皆様からのご寄付、運営費の節減努力を行ったが、追補版を発行したことによる費用増等により、
差引収支残(48,770円)
真船監事の監査報告を確認
平成20年度事業計画案

ご寄付御礼

昨年度は17名の方からご寄付を頂戴いたしました。お名前を掲載して御礼に代えさせていただきます。(敬称略、カッコ内は期・卒年)

三角俊登(39・S12故人)
井筒吉彦、梅崎総一、神山茂郎(以上43・S16)
田沼修二(45・S18)
宇野浩、大島隆、小笠原敏雄、小泉道義、
多和田昭二、古川龍之介、山元盛一、渡辺保二
(以上46・S19)
堀田善和(47・S20)
松谷克(59・S32)
満留弘美(67(定時制15)・S40)
匿名一名

当支部の財政状態はまだひ弱で、本年も引き続き会員の皆様のご寄付を募っております。お志のある方は、ご協力をお願い申し上げます。

【取扱金融機関】郵便局
【口座番号】00190 1 124291
【名称】白楊ヶ丘同窓会東京支部
【振込用紙】郵便局備え付けの用紙をご利用ください。

役員の変動及び選任の件を諮った。
顧問推挙に関連し、昨年度収支決算中の顧問会支出について質問があった。
安田支部長より、本件、役員改選に伴い前支部長が顧問会を招集したものであり今回限り、との説明がなされた。
案のとおり役員の変動及び選任が承認され、選任された副支部長、理事の挨拶があった。
理事を退任される60期の北原氏からご挨拶をいただいた。
引き続き、同会場において会費制で懇親会を実施。今年度親睦大会幹事の78期垣坂氏からイベント企画説明及び協力要請等があった。
理事・76期 白川 正広 記

ポプラ会 報告

第29回ポプラ会が、平成20年6月26日、さいたま梨花CCで、開催されました。
当日は梅雨真つ盛りの時季にも拘らず、ひどい雨にはならず、参加者16名は、楽しく和気あいあいの中、終了しました。成績は次のとおりです。

優 勝	2 位	3 位	ベ ス グ ラ 賞
72期 佐藤 禎子氏	63期 中村 崇氏	64期 上田 健司氏	64期 上田 健司氏

今回、最高齢参加者の52期瀬田松吉昭さんが、14番ホールで、ご自身にとって初となるホールインワンを達成されました。おめでとございます!!

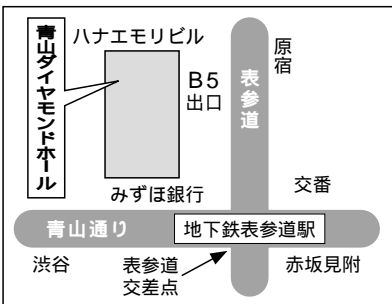


白楊ヶ丘同窓会東京支部 第32回親睦大会案内

東京白楊祭 ~ Discover 函中、わが街函館 ~

2008年10月18日(土)午後2時~
青山ダイヤモンドホール 会費:8,000円

青山ダイヤモンドホールご案内



青山ダイヤモンドホール

〒107-0061 東京都港区北青山3-6-8
電話: 03-5467-2111

地下鉄

銀座線・半蔵門線・千代田線
表参道駅B5出口直結

JR山手線

原宿駅下車・徒歩10分

駐車場(有料)には限りがございますので、なるべく公共の交通機関をご利用下さい。

今年度の親睦大会は、第78期(昭和51年卒)が担当します。我々の大学受験の頃は、ロッキード裁判がたけなわで、「ピーナッツ」「記憶に「ごいません」という言葉がはやっていました。まだ社会人となる前でしたので、サラリーマンの哀歌とも言われた歌詞の意味は理解できませんでしたが「およげ!たいやきくん」がヒットしていた頃です。

それから32年の月日が経ちました。函館に残っている者、札幌や道内で働いている者、東京やその他の場所に居を構えた者と、それぞれ分かれましたが、結束が強いのか、単にお酒好きが多いのか、何か理由をつけては、時折集まっては飲み、美味しい「いか」を食べて、語らっている78期です。

今年の企画としては、

同期でプロのミュージシャン、ラヴィックの清野たかしさんと奥様のライブ演奏

同期でセミプロのピアニストである、島津路郎くんのBGM演奏

函館、函中にちなんだ奇問珍問

クイズコーナーを予定しています。

音楽は、幅広い年齢層にもマッチする曲の組み合わせを考えています。ご来場の皆様全てが楽しめるスタンダード・ナンバーを中心に選びたいと思っています。島津くんは、ここ数年、親睦会の同窓会歌と校歌の伴奏をしていますし、今年はそれに加えて華麗なBGMも弾く予定です。クイズも同様に、古い時代のものから比較的新しい事柄まで数問用意します。同期の方との語らいを愉しみに来られる皆様の邪魔にはならぬようにしながらも、これだけ年齢層が幅広い親睦会ですので、異なる世代の方が一緒に話し、回答を考えられるような工夫も準備しています。

函中の歴史と伝統を感じさせる親睦会に、皆様、是非ともお誘い合せの上ご参加頂きたく、お待ちしております。

【Lovesick(ラヴィック)】

1990年、オリエントレコードよりシングル「Only One Night / 消えゆく街へ」をリリース。北海道にて有線リクエスト第2位。ジャズ、ロック、ゴスペル、ボサノヴァなど、ひとつのジャンルにとらわれない今日のスタンダードナンバーを創っていくユニット。作詞・ヴォーカルは清野寿美代、作曲・編曲・キーボードは清野たかし。



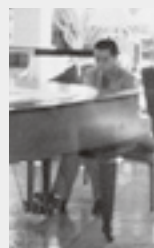
【清野たかし(78期)】

函館中部高校昭和51年卒。高校時代には後に「お魚天国」を作曲した柴矢敏彦さんのバンドでベースを担当し、20歳よりプロのピアニストとして活動。ロック、ソウルのバンドを経て、テレビ・ラジオ・イベントの作曲、ポップス、ジャズシンガーのバック、スタジオワーク、キーボードインストラクター、音楽雑誌への執筆、キーボード・音楽理論の講師として活動中。



【清野寿美代】

東京都出身、高校在学時に女優としてデビュー。テレビドラマにレギュラー出演、モデルを経て歌手としてシングルリリース。Lovesick結成後はヴォーカリスト、作詞家、ヴォイストレーナーとして活動中。



【島津路郎(78期)】

10年前、健康飲料のBGM、坂本龍一の『energy flow』に魅せられて小学生以来のピアノレッスンを再開。5年前にエレクトーンにもはまり、ヤマハ音楽能力検定エレクトーン及びピアノコース6級に挑戦し取得。エレクトーン&ピアノの愛好者のサークル『TEACH BA』を主宰し千葉県を中心に活動中。4年前より、東京支部大会の同窓会歌・校歌伴奏を担当。室蘭工業大学工学部機械工学科出身。

編集後記

親睦大会は、ひとつの期が担当する形になって今年で七回目、50歳の期を当番期としてからは四回目です。その都度聞かえてくるのは「集まる機会も人数も増えて絆が強くなった」との声です。出席される皆さんにも、毎年違った趣向のイベントを大いに楽しんでいただけていると存じます。しかし各期の事情は様々で、必ずしも50歳の期が毎年続けていけるとは限りません。いつでも「我が期が」という立候補を大歓迎します!

今回の「随想」には、旧制中学から新制高校に切り替わって間もない時代に至るまでの三人の方から戴いた、函中の歴史と伝統を感じさせる貴重なご寄稿もあります。第52期・福建達男氏が、終戦直後の激動の時代を函中で過ごされた二年生からの続編は、来年の32号に掲載します。乞うご期待!!

本紙編集スタッフは新体制の下、試行錯誤を重ねつつ、ひとりでも多くの会員に読んでもらえる会報作りを目指しています。ご意見やご感想などを寄せただけなら嬉しい限りです。

最後に私ごとですが、函中時代「白楊時報」を発行した新聞局で、新聞作りの楽しさを教えてくれた先輩と、同期の局長S君に感謝 (U)

東京白楊だより31号

発行 白楊ヶ丘同窓会東京支部
発行人 安田 康次(67期)
編集 木戸 正文(68期)
梅田 やよい(69期)
発行日 平成20年8月23日
【東京事務所】
〒160-0022
東京都新宿区新宿1-13
TEL 03-3333-4112
FAX 03-3333-4112
50281
81